

# 視覚障害者の雇用と生活支援における要望書

令和3年11月5日

「あうわ」視覚障害者の働くを考える会

代表 林 由美子

私たち「あうわ」視覚障害者の働くを考える会は、金沢市の市民協働団体として障害があっても就労に就き、人の役に立つことで生きがいを感じることができる街づくりを目指して活動を続けています。

発会当初は、視覚障害の当事者として本来、受けられるはずの支援に繋がらない現実を変えたいとの思いから出発しました。その後、多くの方からご助言をいただく中、生活支援と就労支援それぞれに大きな問題があると実感するようになりました。その一つは、支援に繋がれない現実があること。もう一つは、視覚障害者の就労に大きな地域格差があることです。

本年は、ツェーゲン様と金沢青年会議所様との協働で視覚障害者向けの実況中継を聞きながら試合観戦をする「Future Challenge Project」の開催により視覚障害者の生活の向上への新しい取り組みに挑戦しました。その企画の中で視覚障害者が抱える困難な現状を多くの方と共有する機会を得たことは会としても大きな収穫となりました。

また、毎年、秋に関連行政機関の皆様との意見交換の場として開催している「視覚障害者の働くを考える座談会」も3回目の開催を予定しており、視覚障害者の就労についてより具体的な議論の場としていきたいと思っています。これまでの活動の中から金沢市における視覚障害者支援の充実のために“今、視覚障害の当事者が考える必要な支援”として以下、要望します。

## 記

- 一、眼科医から視覚障害者に対して障害者手帳の申請の案内を徹底すること。
- 一、地域生活支援および生活訓練・歩行訓練の充実を図ること。
- 一、移動支援・同行援護の拡充を図ること。
- 一、生活訓練としてPC 音声ソフトやIT 機器の操作方法が学べる場をつくること。
- 一、視覚に障害があっても受けられる職業訓練の体制を確立すること。
- 一、金沢市職員として視覚障害者が働ける環境づくりを行い視覚障害者雇用のロールモデルを作ること。
- 一、ヘルスキーパーの採用企業を増やすための周知活動を行うこと。
- 一、金沢市のLINEポッドに障害者支援を開設すること。

以上